

2018（平成 30）年度大学教育再生戦略推進費

事業名：精神科多職種連携治療・ケアを担う人材養成

代表校：筑波大学、連携大学：東京慈恵会医科大学

事業期間：2018～2023 年度

事業の概要

本事業では、医師、歯科医師、看護師、薬剤師、理学療法士、作業療法士、精神保健福祉士、公認心理師、栄養士等を対象に、認知症、うつ病、PTSD などのストレス関連疾患、薬物・アルコール・ギャンブル依存症、周産期メンタルヘルス、児童・思春期（摂食障害）等の多様な疾患の特性を踏まえた多職種連携による治療・ケアの体系的な教育を行う。多様性に対応するため、多分野の精神医療専門家を擁する筑波大学の学内連携、茨城県立医療大学および東京慈恵会医科大学との大学間連携、メンタルヘルス関係機関との地域連携という 3 つの連携を活用し、eラーニング、映像教材、トランスディシプリナリー合同講義・合同実習による教育プログラムを開発・実施する。それにより、精神科リエゾン、リハビリテーション、コミュニティケアにおいて役割を果たせるメディカル・スタッフを養成する。

事業の成果：

大学院医学研究科医学系専攻博士課程共通カリキュラム

科目「認知症医療における多職種協働（Interprofessional collaboration in the care of people with dementia）」

<教育目標>

認知症医療における多職種協働を実現するために必要な知識と技術を体系的・実践的に学習する。各認知症疾患の特徴や生活障害，治療・リハビリテーション，認知症疾患の告知とその受容のかたち，治療薬の効果と副作用などを含めた薬物療法の留意点，認知症の自覚症状や主観的症状への支援の考え方，在宅生活を支える連携の在り方を学習する。